

常盤文藝

童謠
 犬
 犬サンガ尾ヲフツテ
 スソニカラマル
 ハナレナイ
 カハイ、ハナイ
 小犬サン
 イツデモ頭ヲ
 ナデテヤル
 ◆當番
 今日ハワタシノ
 當番日
 教室掃除ノ當番日

看護婦派出の求めに應ず

平町南町
 看護婦會
 電話三〇七番

印袂天

ちるしはんてん
 ◆弊舗の萬言よりも
 華客の一言にあり
 手拭・風呂敷
 消防被服
 刺子類一切
 柏屋染物店
 柏傳刺子部
 平町材木町

一冊の代金で御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀める

平町長橋町三五
 川崎同文庫
 (申込次第規則書進呈)

洋食は

向上軒
 平停車場新道通り
 (電話五二三番)

建築ペンキ塗
 美術諸看板
 硝子金銀文字
 其他各種
 大音堂
 平町四丁目

開業披露

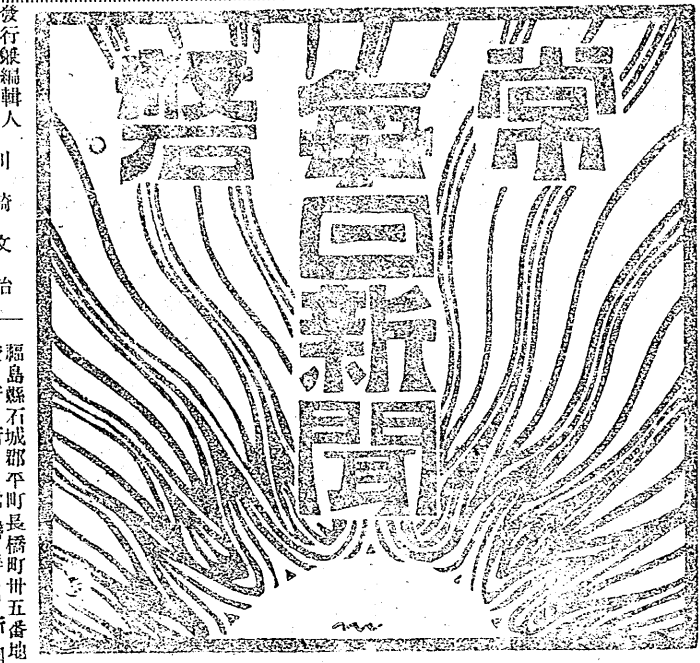
喜樂園子 卅十五錢
 喜樂すし 卅三十錢
 出前は遠近に不拘
 早速お届けします
 女給募集す
 平館前 喜樂
 電話呼出四六番

オリミルク

お子様方は正直です
 メリーミルクが大好き
 申されまます。
 製造元 東京平津
 東京特約店 平津
 東京子会社 平津
 東京支店 平津

味付落花 新らたに菓子工場を経営して皆様方の御家庭にお安く提供する事となりました何卒に最負の程を
 目種業營
 斤全部五平尼有ド寶磯命味
 賣全都色平子平ロの米落
 糖世 色 荷 糖 豆 豆 豆 糖 花
 種 界 豆 豆 豆 種 豆 花 糖 糖
 久野製菓販賣部
 福島縣平町一丁目
 電話 一五〇番
 工場 平町長橋町六十一番地

金福の融音
 平信用組合が庶民階級の銀行として責務を果す為めに如何に有利にして便益の多い組合であるかは是非一度御問合せを願ひ度と思ひます(申込次第説明書進呈)
 任責限有 平信用組合
 合組用信平
 藏久谷大長合組
 助之信目馬記書
 番九一話電目丁三町平



定一冊五錢
 郵税五厘
 印刷所 水社印刷局 陽

刊夕日七十二月八

山古印醬油

元造 鹽屋本店
 電話 七二番

寄書

中山雅司

心機一轉
 「闇を子故に探つた柿の技を思はず放つ鏡」
 近所に甘さうな柿がしたたか住つてゐる、子供は頑固な食指動いて禁せず親にせがむ買つてやると其場は賑かして歸つたが、家に餘裕の錢はない、釣瓶落しの秋の日は暮れてあたりは暗くなる、子供は空腹の一入欲しくなつて柿々どせがんで止まない、
 そこで遂に生心機を幸柿の枝を掴んだ、今將に實を摘かうとする刹那、ボー

顛倒する最初の一轉を言ふ物にして愈々調子づけば日に幾廻轉するやも知れざるものとなれり、腹か空いて蕎麥屋へ這入らうとした奴が、館やへ飛び込み、活寫を見無事に歸る筈の奴が、妙に心機一轉して其儘魔界へ入り込み、二世を約した神聖の戀愛が心機一轉して忽ち路傍の人となるなどの類なり遠大なる理想上の心機一轉幽玄なる信念上の心機一轉權威ある主義主張の心機一轉人間生涯の出處進退に於ける心機一轉の如きは、ふはくとして風船玉に等しき今日の心機一轉屋に望むべからず。

式株賣買中値

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三、五
平銀行	五〇〇	六八、五
磐城銀行	二二、五	一〇、五
磐城銀行	五〇、〇	四〇、〇
磐城銀行	三〇、〇	二七、〇
田村銀行	一七、五	一七、五
四合銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	一八、八
同新	一五、〇	一五、〇
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	三七、五
同新	二五、〇	一七、五
只見電氣	一一、五	七、〇
植田電氣	一一、五	一五、五
好問電氣	一一、五	一三、〇
磐城銀行	二〇、〇	四、〇
磐城銀行	二〇、〇	二五、〇
平信託	一一、五	一三、五
磐城銀行	五〇、〇	二六、〇
植田電氣	三〇、〇	二〇、〇
好問電氣	五〇、〇	三〇、〇
入山新	二五、〇	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四、〇
同新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六四、五
同新	三三、〇	四、三
平運送	一一、五	八、〇

平町田町 電話三二三番
 丸登株式会社
 川添房二郎

夜來の豪雨に 稻田は濁水逆巻く

被害家屋刻々増加して
各戸避難の用意を整ふ
平消防救護隊出動

一昨日来の豪雨は益々猛勢を加へて新川岸を溢水し内郷村御厩地内國道には深さ四尺餘の水逆巻く爲軌道自働車全く運轉不能に陥つたが附近耕地を泥海と化せしめた濁水は氾濫して長橋町方面に迫り且つ市街各所の下水堀溢水の爲め午前十時頃迄には新田町に九戸、白銀町に五戸、仲間町七戸、柳町五戸、北白銀五戸、田町二戸の床下浸水家屋を出し刻々危険に瀕するもの多く各戸は家財道具を取纏めてイザと云ふ場合には直ちに他に避難し得べき用意を整へ戦々胸々たるものあり平消防組にては午前十一時取敢えず十名の救護隊が鐵道以北の方面に出動した

▼好問本山 本山北川の川岸に沿ふて家屋四戸床上に浸水、権現堂下の七戸も危いが流失の如き惶れはない

▼小名川増水 小名川三尺増水せる爲め下水溢

町議候補の顔ぶれ

來春改選の町會議員候補者は今から早くもソロソロと話題を賑はして居るが愛町生を以て「來年五月の町會議員改選には左の人物を擧げて町政の革新を圖りたい」との投書が今朝本社に舞ひ込んだから御參考迄に掲載する

各地の飛報

頻々こ来る

平町附近町村の被害は左記の如くである(本日正午)
▼内郷宮方面 磐城炭礦坑夫の入坑は常時と變りなく浸水家屋は床下八戸に過ぎず人畜に死傷なし
▼綴驛附近 泉川増水丈餘及び國道に濁流溢れ人馬の交通杜絶した、浸水家屋は床上十六戸、床下二十八戸にして水田浸水八町歩

榊田榮太郎、植頭鶴松、永山和、山崎喜正、大森勇、岡田治作、大原長太郎、井上茂作、關内重三郎、吉田五平、青沼重太郎、草野廣吉、酒井國三郎、坂本隆藏、柏原幸次郎、鈴木長三郎、藤沼平二、新田目善郎、飯田一、山崎與三郎、花澤久一郎、千葉彦治、諸橋國松、丹野榮三郎、猪狩定平、鷹崎貞衛、吉田由三郎、高橋龜松

▼赤井村出水 夏井川及び愛谷堰等六尺の増水にて井原川の堤防二ヶ所欠潰し濁水は泥砂と共に稻田に侵入被害四反歩と目され床下浸水廿戸あり
▼江名濱方面 江名

襲つた賊が捕はれた

神社荒しが専門
釘拔を盗んで運の盡き

平町八幡小路神社飯野八幡神社の賽銭箱を破つた犯人ありしは當時處報の如くであるが右は此程水戸署に捕はれた原籍茨城縣多賀郡北中郷村大字木皿當時住所不定無職平原左近(三)の處爲と判明した、同人の自白する處に依れば此外石城郡江名町諏訪神社の賽銭箱を手に始めに廿ヶ所の神社を荒らし去る四日夜水戸市紺屋町大工職鈴木松吉所有の釘拔を窃取し賽銭専門の賊から釘拔に早變りしたのが運の盡きだとうそぶいて居た

石城郡内の洪水被害程度

土木所長語る

石城郡内の洪水被害程度に關し渡邊平上木監督所長は語る「今晩夏井川の増水が一丈三尺四寸に及び此分で雨勢が強ければ被害程度も甚かつたでせうが夜明け頃から

小降りとなつた爲め今では(午後二時)一尺三寸の減水を見るに至り大分肉は弾力がありますから、指先で押してもまた元にかへりますが、古くなると凹んだまゝになつてゐます、新しい肉は切つておいて色が變りませんが、古い肉はすぐ色が黒くなつて外面が汗をかいたやうに悪いにはひが致します



家庭欄

肉類の見分方

牛肉ならば濃赤色、豚肉は淡桃白色であります、これが變色せず現れて居るのが良い肉であります、良い

干票の貯藏法

干票はちきにかびて困るものですが、糸を巻くやうにして一本づつ固く巻くやうにしておきますと、たとへ上皮がかびても中の方はいつもきれいです澤山の時はよく日光に乾かしてから新聞紙に固くくるみブリキ罐に詰めておくで大丈夫です

募集

文藝其他一般投稿を募集します

石垣が崩落

卅間に及ぶ豪雨の爲め

本日豪雨の爲め磐城中學校敷地の石垣が卅間に亘つて崩落した

原因

なつてゐます管内被害程度は今迄の報告に依ると大した事ありません江名町隔離舎の背後に當る山が四五坪崩れて縣道を杜絶し交通不能に陥つた相ですが此れ以外には草野村六十枚の夏井川の渡橋が流失の惶れある爲め同村青年團が

消防組

と協力して

早速引き外したとの事です其他道路堤防橋梁等には何等被害を蒙つて居ません

潜り無盡業者に

平署大鐵鎚を下す

高利貸以上の暴利を貪る

大藏大臣の許可を受けざる無盡講とか頼母子講とか貯金組合とか其他類似の名稱を附しつゝ會員を募集し抽籤若しくは入札の方法で無盡類似の行爲を営み甚だしきに至つては掛金率の不定とか所謂高利貸以上の高利を貪り殆んど營業無盡と大同小異の振る舞をなすのみならず比較的層社會を相手にして奇利を博し暴利を以て會員を苦しめつゝあるもの多く是等は殆んど潜り

貝殼騒動

青年連の立腹

石城郡四食町々會議員吉田彌十郎氏が澤山の北寄貝の殻を海岸に捨てたのを衛生上不潔でもあり且つ海水浴季多数の外來者に對し交通上危険又は悪感を生ずると

警官射撃

大擧して捉ふ

(福島電話) 福島署巡査部長(元平署同)石田吉五郎氏を廿四日夜半ピストルにて狙撃し瀕死の重傷を負はせて逃走した犯人に就ては

亭主と縁切り

昨日平署に

平町鎌田遊廓榮樓妓夫太郎

新聞記事の掲載差止中の處犯人逮捕され、本日解除となつたが犯人は福島市萬世町佐藤屋旅館に滞在中であつた、岩手縣紫波郡古館村生れ山本佐助(三)にて同夜舉動不審の故に依り石田部長が連行の途中矢庭に發砲し右胸部に射撃して逃走翌廿五日午前四時四十分頃伊達郡大木戸村にて消防組員等に取巻かれ自殺を企て咽喉部を撃つて苦悶中を逮捕された因に石田部長は生命覺えない由、

離縁して貰ひ度いと泣き伏し呼び出された清八はイワに未練があつて今後は必ず償ひますと平蜘蛛の如くに謝まつて引退つたがイワは離縁して貰ひ度いと署を立ちのかないで署員を手古すらした